

尖閣問題：日本應注視馬總統的提案

小笠原 欣幸

最近台灣的漁船與海巡署的船艦進入尖閣諸島（釣魚台）海域，在日中正為了領土問題發生衝突之際，宛如是火上加油。可是台灣與日本之間擁有共同的價值觀：民主與自由，而且兩國間的民間交流也非常熱絡。實際上台灣並不希望為了領土主權問題與日本對立，也擔憂日中之間因為此爭議而發生武力衝突。

在中國大陸的反日示威遊行非常激烈之際，我正與一些日本學者在台北訪問，並和一些政府高官進行座談，當中不但確認了馬英九政權並無意在領土問題與中國大陸合作的態度，也感受到台灣方面對於日本在相關問題上始終無視台灣的不滿。

馬總統在8月5日與9月7日提出的「東海和平倡議」主張「主權在我、擱置爭議、和平互惠、共同開發」。馬總統雖然在1月份的總統大選獲勝而連任，但之後因為內政問題招致民意不滿，支持率也下滑，同時在釣魚台問題也被批評為太過軟弱。不過馬總統在可能被迫採取對日強硬政策也不奇怪的時機仍提出推動「和平」的政策，是值得肯定的。馬總統也提出了「東海和平倡議」的「推動綱領」，點出務實對話議題。馬總統並主張，為了推動日中台的三邊對話，應該要先從日台、中台、日中三組雙邊對話開始。

台灣方面的真正意圖並非爭奪尖閣諸島的控制權，而是該海域的漁權，以確保漁民的實際利益。日本政府應該由靈活的方式應對這個問題，並且透過交流協會與台灣政府以及漁業相關人士加強溝通。之前馬政權為了抗議日本而召回了駐日代表沈斯淳。但我希望沈代表盡快返日，並向日本各界說明馬總統的和平倡議。

至於中國方面，如果台海的現狀得以維持，基本上幾乎不可能在尖閣諸島使用武力奪島，因為這會導致台灣方面認為「接著就會輪到台灣」，而導致胡錦濤政權透過「兩岸關係和平發展」以爭取台灣民心的路線與至今的成果一口氣煙消雲散。中國領導人如果真的考慮在尖閣諸島使用武力，應該也是在統一台灣之後，或者是兩岸達成某種程度的軍事合作關係之後才有這個可能。

馬總統相當自豪自己透過兩岸都能接受的「92共識」擱置主權爭議而改善了兩岸關係，因此這次的提案應該也是希望透過這種各方都能接受的曖昧形式來穩定目前出現的對立局勢。日本政府應該要好好接著馬總統拋過來的球；至於中國方面，如果拒絕了馬總統的提案，可能會損了馬總統的面子，因此應該會慎重思考吧。

* 本文刊登以後，沈斯淳代表10月4日返回東京。另外，日本外相玄葉光一郎10月5日對台灣發表訊息。對此台灣外交部表示肯定。

馬總統の呼びかけに注目

尖閣問題



東京外国語大准教授(台湾政治)

小笠原 欣幸
おがさわら よしゆき

台湾の漁船団や巡視船が尖閣諸島周辺の領海に侵入し、日中の対立に台湾が加わった形となった。しかし台湾は民主と自由という価値を日本と共有し、民間交流も幅広い。実は、台湾は「領土」で日本と決定的対立を望まず、日中の衝突を憂慮しているのだ。中国で大規模な反日デモがあった頃、私は台北で研究者仲間と政権高官らに面会した。馬英九政権が領土問題で中国と連携する意思がないことを改めて確認したが、日本が台湾を無視しているという不満を強く感じた。

馬總統は8月5日と9月7日、「東シナ海平和イニシアチブ」で「主権は分割できないが天然資源は共有できる」「争いを棚上げし平和的方法で解決しよう」と呼びかけた。1月に再選された總統は国内政策でつまづき、支持率が低迷。尖閣問題への対応を巡り「弱腰」批判にさらされている。強硬策に走ってもおかしくない局面で「平和」を提案したことは評価できる。

馬總統は「イニシアチブ」の一環として、漁業、鉱業、環境保護、海上安全など、対話のテーマを示した「推進綱領」も発表。すぐに日中台3者の対話とはいかないので、日台・中台・日中の3辺を先行させるとしている。台湾側の本音は、尖閣支配ではなく

漁業で実利を確保することだ。日本政府は柔軟性を発揮し、出先機関の交流協会を通じて、馬政権や漁業関係者との連絡を密にすべきだ。

馬政権は、尖閣国有化に抗議するため沈斯淳・駐日代表(大使に相当)を召還した。沈代表は早く帰任し、日本各界に馬提案を説いて回ってほしい。

台湾の現状が維持されている限り、中国が尖閣諸島で武力行使に踏み切る可能性はほとんどない。台湾の目と鼻の先の尖閣で軍事行動をとれば、「次は台湾だ」という警戒感が高まり、胡錦濤政権が「兩岸関係の平和的發展」という名で進めてきた「台湾人の心をつかむ」路線が一旦に吹き飛ぶ。中国指導部は、尖閣諸島での本格的な軍事行動を起こすとするなら、台湾統一、ないしは台湾との軍事協力が可能になった後、と考えているだろう。

馬總統は、中国との間で双方が自前の解釈が可能な「92年コンセンサス」という概念を使って主権問題を棚上げし、関係を改善したという自負がある。今回の馬提案も、玉虫色の概念で局面を安定化させる狙いがある。

日本政府は、馬總統のボールをしっかり受け止めたらい。中国側は、拒否すれば馬總統の顔に泥を塗るようになるので、慎重に検討するであろう。